

成長ホルモン投与中の小児における甲状腺ホルモン値の変化 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：(2018年 12月 19日) ～ 2021年 3月 31日

〔研究課題〕 成長ホルモン投与中の小児における甲状腺ホルモン値の変化に関する検討

〔研究目的〕

成長ホルモンを投与すると甲状腺ホルモンの値が変化することが知られています。成長ホルモンの適応疾患はいくつかありますが、本研究ではその変化がどのような疾患で起こるのか、時間経過や IGF-1(インスリン様成長因子 1)の値と甲状腺ホルモンの値の変化に関連があるかを明らかにします。

(成長ホルモンそのものは日内で値が変動しますが IGF-1 は成長ホルモンの作用を受けてほぼ一定の量が産生されています。今回は成長ホルモン値を IGF-1 値で代用し、それが甲状腺機能と関連があるかどうかを解析することで、成長ホルモンが甲状腺機能に及ぼす変化について推察します。)

〔研究意義〕 甲状腺ホルモンの分泌調節機構に成長ホルモンがどのように関係しているかを解明します。

〔対象・研究方法〕

●対象となる患者さん：

2009年4月1日～2018年3月31日に15歳未満で成長ホルモン治療を導入された下記疾患の方

成長ホルモン分泌不全性低身長症/SGA性低身長症/ターナー症候群/プラター・ウィリー症候群/ヌーナン症候群/軟骨異栄養症/慢性腎不全性低身長

●研究に使用する試料：

年齢、性別、診断名、治療導入前後の血液検査結果(IGF-1、TSH、FT3、FT4)・・・追加の採血は行いません

●研究の方法：

過去の診療記録を用いて、必要な診断名、治療開始時の年齢、性別、血液検査(IGF-1、TSH、FT3、FT4)の結果を調べます。これらの情報は匿名化され、個人が特定できない形で集積されます。統計学的手法を用いて解析を行い、成長ホルモン分泌能や時間経過と甲状腺ホルモン数値の変化について検討します。

〔研究機関名(施設長・研究責任者)〕

帝京大学ちば総合医療センター(和田佑一・南谷幹史)、松戸市立総合医療センター(烏谷博英・成瀬裕紀)、成田赤十字病院(角南勝介・眞山和徳)、千葉大学医学部附属病院(山本修一・今田寛)

〔個人情報の取り扱い〕

みなさまから提供されたこの研究に関する情報は、匿名化され管理されます。匿名化された情報は、研究代表施設である帝京大学ちば総合医療センターへ集積され、小児科 太田節雄により管理されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学ちば総合医療センター 小児科 病院教授 南谷幹史

住所：千葉県市原市姉崎 3426-3 TEL:0436-62-1211 (代表) [内線 2914]